

大江校だより

「チャレンジ」と「関わり」を楽しみ、「自己決定」する子どもを育てる

令和2年7月16日（木）
山形県立
楯岡特別支援学校大江校
第2号文責 教頭（相沢）



保護者の皆様、地域の皆様には日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に関わって、これまでの様々なお願いや変更等に御協力いただき、心より感謝申し上げます。

6月8日（月）から通常日課で全校生徒が毎日登校するようになり、1か月以上経過しました。「3つの密」を防ぐため、学校生活は以前と同じようにできない部分もありますが、様々な工夫をしながら日々の学習活動を行っています。毎日朝から下校の時間まで生徒の皆さんの姿があり、活気のある声が聞こえ、一生懸命学習に取り組んでいます。少し前までは当たり前だった日常の光景が何より嬉しく感じられたこの1か月でした。しかし、県をまたぐ移動制限の解除等に伴い、県内でも再び感染者が確認されるようになり、改めてこの未知のウイルスの対策の難しさを再認識させられました。生徒が安全に充実した学校生活を送れるよう、基本的な感染症対策に加え「新しい生活様式」を徹底しながら、教職員一丸となって教育活動を行っています。

高等部3年生が作ったとても大きなアマビエです。廊下に掲示しています。コロナが早く落ち着くようお願いを込めて、大江校だよりのタイトル横に今後も載せたいと思います。

コロナ対策をみんなで意識しながらの学校生活



交通安全教室ではしっかり距離を保って、実際道路に出ての歩行や安全に道路を横断する練習を行いました。高等部では自転車の安全な乗り方をグラウンドで練習した人もいました。



中学部体育の整列の様子です。ソーシャルディスタンスを保って並ぶこともすっかり定着しました。

生徒総会では、各代表の生徒が、自分たちでよりよい学校にするための提案を放送で行いました。代表の言葉を学部や学級ごとに教室で真剣に聞いていました。



検診のときに並ぶ目印。皆さんとても立派に順番を待っていました。



5月25日から始まった、みんなが待ち望んでいた給食の時間です。みんな同じ方を向いて食べています。



今年度も左沢高校の皆さんから花苗をたくさんいただきました。今は直接交流するのは難しいですが、このような形で交流できるのはとてもありがたいことです。そしてこの時にとても素敵なことが！グラウンドの真ん中に巣を作っていたコチドリの卵が孵って、その瞬間をたくさんの生徒が見ることができました。なかなかできない、貴重な体験だったと思います。コチドリについては、中学部でいろいろ調べてくれました。



7月2日の創立記念日は、それぞれの学部で行いました。大江校の歴史を振り返ったり、学校の好きなところを発表し合ったり、校章の由来を確認したりと、皆さんの学校に対する思いが感じられる、とても有意義な時間になりました。校章は外側の緑色の円のような部分が村山盆地の「山々」を、その内側の結び目が地域の人々や学校などとの「絆」を、中央の文字が「生徒」の皆さんを表しています。

